**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第３６回　（２０１７年　９月５日）**

**・第３６回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」９頁**

チフスという病気にかかった人は、ピクルスと水を絶対に摂ってはいけません。しかし病人は水やピクルスが欲しいですから、病室にそれらを置くと、つい食べたり飲んだりしてしまいますね。ですので、病室に入れないことが一番大事です。

☞（『福音』76頁Ｌ7～15参照）

それと同じように、ふつうの人は息子、娘、旦那さん、奥さんに対して執着がありますので、執着の対象が周りにありますと、放棄が難しいですね。分析、内省をしますと、家族への愛は、神聖な愛よりむしろ執着であることが分かります。そのために、家族がいる場所から離れた方がいい。別の場所、神聖な場所に行って、実践をした方がいいです。

神聖で静かな場所で神様のこと、例えば神様の知識、放棄について考えます。それをせずに家族の中に入りますと、心は世俗的になります。

神聖な場所に行き実践をして、家族の元に戻り生活をしていますと、霊的なことを忘れてしまいます。そうするとまた神聖な場所に行ってください。そのようにして続けてください。

**神様をたくさん思い、神の静けさ、清らかさ、神聖さで心を満たして、純粋な心にする**

心は面白いです。心には自分の殻がなく、まるで水のようです。例えば赤色をまぜると赤くなり、青色を混ぜると青くなります。ある化学薬品を入れると赤色だった水がまた透明になります。心はもともと無色透明で形がありません。水をポットに入れるとそのポットの形になるように、心がある対象を考える、例えばある人のことを考えると、その人の形になります。　例えば、お化けの話をたくさん読んだ後に、夜、暗い場所に行くと、そこにお化けがいるかもしれないと思う、という経験はありませんか？　また、シャーロックホームズなどの探偵物語をたくさん読むと、地下に犯罪者がいるかもしれないと考えたり、こわもての人を見ると、犯罪者かもしれないと思う。

心はそのように、染まりやすいです。ですので、いつも神様のことをたくさん考えますと、神様のことをいつも思い出すことができます。無執着ができます。そしてもっと心の平安が出ます。なぜなら、**神様の静けさ、清らかさ、神聖さをずっと考えますと、心は無意識にそのようになりますから**。論理的ですね。

逆に世俗的なことをたくさん考えますと、心は世俗的になります。愛している人のこと、家族のことだけを考えると執着が出ます。そしてそこからさまざまな束縛や無知が出ます。心は前から世俗的で、ラジャスとタマスばかりです。それを変化させて新しい神聖で純粋な心を作るのはとても大変です。

我々は「私は体」という意識がとても強いですので、ウパニシャッドの勉強会で一度「私はアートマン、魂です」と聞いても、「私は魂です」という意識は絶対出ませんね。すぐに体意識が戻ります。なぜならずっと体意識のことを考えていますから。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁上段Ｌ１３～Ｌ１９

*世間は水で心はミルクだ。もしミルクを水の中に注げば、両者は混じり合って一つになる。もう純粋なミルクを見ることはできない。しかしミルクを擬乳に変え、それを撹拌してバターにすると、そのバターを水に入れても、それは浮くだろう。それだから、一人になって霊性の修行をし、知識と愛というバターを得なさい。そうすれば、たとえそのバターを世間という水の中にいれても、二つは混じり合わないし、バターは浮くであろう。*

（解説）

シュリー・ラーマクリシュナの直弟子であるスワーミー・トゥリーヤーナンダジはアメリカのシャンティ・アシュラムというところで12,3年の間、霊的な教え、トレーニングをしました。そのときトゥリーヤーナンタジはある女性の参加者に「あなたはなぜこの場所に来ましたか？」と尋ねました。すると彼女は「私はバターになりたいです」と言いました。

そして、家族や世界のいろいろなものが水で、我々の心はミルクです。

*もしお前が神への愛を養わないで、いきなり世間に入るなら、お前は次第に深く巻き込まれるだろう。*（８頁下段Ｌ１９～Ｌ２０）

それが結果です。そしてもっと束縛が増えて鎖で縛られます。

*それへの危険、それへの苦悩、それへの悲哀に圧倒されるだろう。*（８頁下段Ｌ２０～Ｌ２１）

それが問題です。

*そして世間の物事を思えば思うほど、それらに深く執着するようになるだろう。*

（８頁下段Ｌ２１～Ｌ２２）

それが結果です。

**霊的になる**

**神様の信者とふつうの人では、大変な状態になった時の心のあり方が違う**

我々は、どうして霊的にならないといけないのでしょうか？

ふつうの人は、少しでも危険があるとすぐに圧倒された状態になり、我慢や忍耐がすぐに消えます。現代の一番の問題は、我慢ができないことですね。皆さんの希望は、「いつも楽が欲しい」ということですけれども、それはできないですね。絶対にいつかは大変な状態に入ります。なぜなら環境はコントロールできないですから。いろいろなことが原因で、危険なことに遭い、ショックを受け、悲しみ、苦しみが出る可能性がありますね。それらは避けることができません。そしてbreak down　落胆をして何もできなくなります。動くことも考えることすらできない。その心の状態はとてもダメな状態ではないですか？

そのような状態に入った時に、神様のことを全然考えない、またほとんど考えない人は、スピリチュアル・ヒーラー、パワースポット、心理カウンセリング、というようなところに行きます。なぜなら困りごとがあるとその種類の解決が欲しいですから。もし、どうしようもないと自殺してしまいます。

霊的な人は、それらの場所にはあまり行きません。もちろん神様の信者も絶対に大変な状態になることがあります。

しかし、神様を信じない人や浅くしか信じていない人と、本当に神様を信じている人とでは、心の影響が違います。

本当に神様を信じていますと、少しの時間は心の状態は大変ですけれども、またすぐに平安が戻ります。それが違います。

「神様は我々の福祉のことを考えてくださっている」

「本当は神様が我々の面倒をみてくださっているので、神様にお任せします」

と考えることができるので、ストレスが取り除かれます。偉大な人、神様、聖者にお任せしています。しかし、ふつうの人はお任せする人がいないので困ります。我慢ができない。そうするともっともっと困りますね。

**大変な状態に入った時のために心の準備をする**

「神様を悟る」というのはずっと後のことです。

我々は、絶対に大変な状態に入ることがあるので、とりあえずは大変な状態に抵抗します。

どのような心の準備で立ち向かうべきか、それを考えてください。タクールはとても実践的な目的で心の準備が必要だと言っています。そうしないとあなたは本当にあとで困りますと。神様のことを考えず、心の準備をせずに世俗的な環境に入ることは問題です。

しかし心の準備ができ、神様を信じ神様を愛しながら家族の中に入りますと、もし大変な状態になっても、圧倒された状態にならない。我慢ができます。　そのために準備が大事です。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁上段Ｌ２０～２２

*これとともに、お前は識別をしなければならない。『女と金』は一時的なものだ。神が、唯一のである。金でなにが得られるか。食物、衣服、住む場所―それだけだ。*

（解説）

ベンガル語の原本では、バーツ（ご飯、食事）、ダル（豆のカレー）、スカポー（服）と言っています。

お金があると、住む場所、泊まる場所、楽をするための洗濯機など、いろいろ得ることができます。他にも生活で大事ないろいろなことができる。例えば高校や大学に進学する、健康のためにお金を使うこともできます。

お金があると、住む場所や生活のいろいろなことができます。

しかし「生活」とは永遠でしょうか？　それを識別して下さい。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁上段Ｌ２２～下段Ｌ１

*それらの助けで神を悟ることはできない。それだから、金は決して人生の目標とはなりえないのだ。これが識別の方法だ。分かるか」*

（解説）

タクールはＭさんに人生の目的が何であるかをはっきり理解しないと、識別できないと言いました。それが識別の基準ですから。そこから識別が始まります。

では、人生の目的とは何でしょう？

生徒「神様を悟ることです」

「神様を悟る」と口で言うのは簡単ですが、我々には「神様を悟る」というイメージがあまり出ていませんね。神様を悟る、真理を悟る、本性を悟る、これらはすべて言葉です。言葉だけだと識別ができません。やる気が出ません。識別が機械的になります。ですので

**まず、内省してください**

　　　　・本当に「神様を悟る」ということのイメージが心の中に出ているか。

・本当のイメージとは何か

・神様を悟るとは本当は何か

**識別は、「神様を悟るというイメージ、本性のイメージ、本性を悟るというイメージ」から始まります。**そこから霊的な実践、人生は始まります。

「神様を悟る、本性を悟る、真理を悟る、ブラフマンを悟る」という言葉の意味は同じです。そしてそれらについての深く考えることが大事です。

例えば、「神様を悟るということは、サッチダーナンダを悟ることです」とある人が言うとします。では、サットとは何ですか？　チットとは何ですか？　アーナンダとは何ですか？　それらはみんな言葉です。あなたは勉強をしたからそのことを知っているだけです。

本当はサッチダーナンダのイメージは出ていないのではないですか？

私は同じことを自分自身にも尋ねています。

・何がサット、何がチット、何がアーナンダか。

・どうしてサッチダーナンダを得ることが必要なのか。

・サッチダーナンダと一時的なものの違いはなにか。

先生も生徒もみんな同じように、この内省は大事です。そこまではっきりと内省をしてみないと、識別のやる気が出ません。イメージを作ることは難しいです。

難しいですが、すこしだけでも理解してイメージを持つことが大事です。

　　・神様を悟ると、人生において何が変化し、どのような結果がでるか。

　　・現在の生活と神様を悟った生活では何が違うか。

**心が純粋になると、神様を悟るというイメージでる**

我々はみんな一時的なものが嬉しいです。

食事を堪能する、愛する人が周りにいる、美しい景色を見る、良い服を着る、それらのことが嬉しいですね。しかしその状態にあなたがいますと、「自分の人生の目的は神様を悟ること」というイメージが出るのは難しいです。

なぜなら、心が世俗的で不純な状態で、純粋なものをイメージすることは難しいからです。

頭や知性だけではなく、本当に理解をするには、心を純粋にしないとイメージは出ません。

「神様のことを考えること」と「心が純粋になること」は相互に関係しあっています。

神様のことを考えると、心が純粋になる。そして心が純粋になるとさらに神様のイメージが出ます。「最初に心が純粋になって、神様を考える」ということはできません。

まず、神様のことを考えると心が純粋になる。もっと純粋になると、神様のイメージがはっきりと出ます。ですので、両方大事です。

今の状態は、神様について勉強したことがあるので、頭で理解しているかもしれないが、イメージが出ていないという状態です。

なぜなら世俗的な考えばかりですので、イメージが出ていません。

イメージが出ないと、本当は識別が難しいです。これが基準ですから。

ですので、今、大事なことは、もっともっと神様のイメージが出るようになることですね。

神様はどのように特別で、神様を悟ると何が違うか。そのイメージをまず持つ。

イメージが最初は出なくても、まず頭で理解してください。

・神様とは何か

・今、好きなものと、神様とは何が違うか。

そのために識別が大事です。

・お金で良い生活はできるけれど、生活は一時的なもので、永遠、無限ではない。

・ふつうの生活では、至福、自由を得ることはできない。しかし、神様を悟るとそれができる。

・神様は永遠、無限、自由、至福です。

**求道者のための二種類の実践**

**①　ふつうのものと神様は何が違うか。**

　　　神様と世俗的なものの違いを生活も含めてはっきりと理解する。

**②　ふつうのものに対して無執着になり、神様をもっと愛する**。

　　　例えば、家族に対して無執着になると、神様をもっと愛することができる。

求道者のためには両方の実践を同時にすることが必要です。

**お金の目的は生きるため。お金のために生きてはいけない**

ふつうの生活で、世俗的なものを得ることが目的になりますと、自由、至福には至らず、束縛、苦しみ、悲しみ、ストレスがたくさん出ます。しかし、タクールは「お金が必要ではない」とは言っていません。お金も服も必要です。しかしそれらは人生の目的ではありません。お金がないと、生きることができず、生きることができないと、霊的な実践はできません。ですので、お金は必要です。理解しないといけないことは、お金の目的は、生きるためです。お金のために生きるのではありません。食事も同じです。食べるために生きるのではなく、生きるために食べてください。遊ぶために生きるという考えの人もいます。大金持ちはもっとお金が欲しいです。お金を得ることをやめることができない。なぜならその人にとって、お金を稼ぐことが目的となっていますから。

お金が我々を幸せにすることはできない。反対にお金がたくさんあるともっとストレスが出ます。世俗的な楽しみとお金は、いつもストレスと一緒に来ます。

**「安定した幸せを得る」というイメージを人生の目的とすると分かりやすい**

人生の目的は「神様を悟る」ことです。しかしふつうの人は、「神様を悟る」ということを理解してやる気を出すのは難しいです。

「安定した幸せを得る」というイメージのほうが分かりやすいですね。

困ったことに我々には矛盾があります。安定した幸せが欲しですが、遊びも好き。執着もいっぱい持っています。しかし、執着を持ち、遊びが好きな状態ですと、安定した幸せを得ることは無理です

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁下段Ｌ２～下段Ｌ４

*Ｍ「はい、分かります。私は最近、プラボダ・チャンドロダヤというサンスクリットの劇を見ました。それは識別を取り扱ったものでございます」*

（解説）

本文の「識別」のベンガル語は、ヴァストゥビチャーラ　vastu-vichāraです。

意味は「実在の識別」です。　ヴァストゥの意味は「もの」、この場合は前後関係で「実在」です。ヴィチャーラの意味は識別です。

実在の識別の意味は、**何が実在で何が非実在かを識別する**という意味です。

シュリー・ラーマクリシュナはそのことについてさらに詳しく説明しています。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁下段Ｌ５～下段Ｌ９

*師「そうだ。対象の識別だ。考えてもみよ―金や美しい肉体の内部に何があるか。識別をすれば、美しい女の肉体さえ、骨や肉や脂やその他の不愉快なものでできているのが分かるだろう。男がなぜ、神を棄ててそんなものに注意を向けなければならないのだ？なぜ、それらのために神を忘れなければならいのか」*

（解説）

シュリー・ラーマクリシュナはびっくりしています。

神様は美しくて素晴らしいのに、みんな神様のことを忘れて一時的で非実在のものをどうして好きになるか。シュリー・ラーマクリシュナ自身の状態はその正反対ですから、シュリー・ラーマクリシュナの見方で、我々の状態を理解することは難しいです。逆に我々の見方でシュリー・ラーマクリシュナのように神様だけで遊び、神様のことだけで楽しむということも理解が難しいですね。シュリー・ラーマクリシュナは「本当は、一時的で非実在のものを好きにならないほうがいい」と言っています。

我々は異性の美しい体に執着をします。一番外の姿は肉体ですね。それを識別する方法をシュリー・ラーマクリシュナは詳しく言っています。

シュリー・ラーマクリシュナは識別をしてくださいと言っています。

**識別について**

識別にはいろいろなレベルがあります。

①道徳的な識別　：　嘘をつかない、盗まない

②霊的な識別　　：　何が一時的で何が永遠か

何が無限で何が有限か

何が束縛で何が自由か

何が苦しみで何が至福か

**一時的のものの中にも永遠なものが入っているが、それは神様の一時的な現われ**

例えば、体は一時的ですが、その中の魂は永遠です。

我々の人格のあるレベルは一時的ですが、他のあるレベルは永遠です。

一時的である体、心、知性を考えないで、魂のことを考える。それも識別です。

人間は一時的である体を持っています。人間のある部分は非実在です。しかし別の部分は実在です。

体は骨や肉などの汚いものでできていて一時的ですが、その中に神様がいます。神様は遍在ですから体も神様です。

**魂だけが神様なのではなく、他の体の部分にも神様は入っています**。

では、違いは何でしょう？

違いは、**体にも神様が入っていますが、それは一時的な現われ**ということです。

そして**一時的な神様の現われには執着しないでください**。もし一時的な現われをとても好きになりますと、執着が出ます。それが問題です。しかしそれも神様です。本当は全部神様です。その理解がないと、憎しみが出る可能性があります。

**悪魔の中にも神様はある**

例えば、不純な人、罪びと、その中には神様はおらず、デビル、悪魔だという考えが出ます。しかしヴェーダーンタはそうは言いません。ヴェーダーンタでは、神も悪魔も両方同じものです。悪魔という別の存在はありません。もし別の存在がありますと、神様が全能ではないということになります。神が遍在ではないということになり矛盾が出ます。

**すべての存在の中に神様はあるが、現われ方が違う**

神様の現われにはそれぞれの存在によって違いがあります。

現われている、現われていない、

現われが一時的、現われが永遠

障害があるので現われることができない

小さい現われ、深い現われ、たくさんの現われなど、

さまざまな現われがありますが、すべての中に絶対に神様はあります。

**現われの違いの例**

・例えば雲という障害があると太陽はあっても現われていないです。もし雲が消えると太陽は現れます。

・「現われていない」という例のひとつは、机です。机の中には意識がありますが、全然現われず、眠っているようです。

**宇宙の神様の現われ**

宇宙やこの世界や世界の中のいろいろなものはすべて一時的です。しかし、すべてのものの基礎は永遠であるブラフマンです。宇宙の基礎は永遠です。

神様はこの宇宙を創って、宇宙の中に入っています。蜘蛛が自分で蜘蛛の巣を作ってその中に入るように。

シュリー・ラーマクリシュナの言うことは、一時的なものの中にも神は現われているが、それを好きにならず、執着せず、神の永遠の姿を好きになることが必要です、ということです。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁下段Ｌ１０～下段Ｌ１３

*Ｍ「神を見ることはできるのでございますか」*

*師「できるとも。ときどき一人で暮らし、神の御名をとなえ、彼の栄光をうたい、そして実在と非実在とを識別する―これらが神を見るために用いられる方法だ」*

（解説）

「神様を見ることはできますか」と「あなたは神を見たことがありますか」という質問は、

信者みなさんの質問ですね。

スワーミージーは、この質問をするために神聖な人びとのもとをあちらこちら訪ね歩きました。そして神聖な人達の最初の質問に対する答えは大体同じで、

「はい、できます。実践すれば、あなたも見ることができます」でした。

しかし二つ目の「あなたは神を見たことがありますか」という質問に対しては、みんな率直に答えませんでした。

スワーミージーがシュリー・ラーマクリシュナを訪ねたときは違っていました。

「あなたは神を見たことがありますか」という質問に対して

「はい、私は見ました。それだけでなく、私はあなたに神を見せることもできます」

と答えたのです。

シュリー・ラーマクリシュナの答えは、自分が悟った経験からの答えでした。悟って出た言葉ですから、力強く、説得力があります。すべてシュリー・ラーマクリシュナが一回言うだけで、信者の疑問はなくなりました。

**認識について**

「神様を見る」というのは、心と知性で神様を認識するということです。

認識には二種類あります。

・ヴァヒインドリヤ　vahi-indiya > vahirindriya　外の感覚で認識する

・アンタリンドリヤ　antara (antaha)-indriya>antarindriya　心と知性で認識する

外の感覚で認識できるものもあれば、心と知性でしか認識できないものもありますね。

例えば「私はあなたを愛しています」というとき、その愛は外の感覚では認識できません。愛などの感情は精妙ですので、外の感覚では見ることができません。

**我々の中にある神様を認識する**

神様は精妙ですので、心と知性で理解をします。しかし神様を認識するのに、ふつうの心、知性ではできません。なぜなら我々の心と知性は汚いからです。執着や無知があります。今の心と知性は世俗的ですから、神様を見ることができない。もっと心と知性をきれいに純粋にしますと、神様を認識することができます。神様は精妙なものの中でも最も精妙で、一番純粋で一番の知識ですので、ふつうの心では認識できません。

「純粋な心、純粋な知性、純粋なアートマン、魂は同じです」とシュリー・ラーマクリシュナは言っています。

例えば、水が汚いと太陽を反射することはできないですね。きれいな反射のためには水をきれいにしないといけないです。我々の心は汚い水のようですので、魂を反射できていません。　また例えば、汚い鏡にはほこりがいっぱい付いているので、全然太陽があっても反射できませんね。

我々には魂があります。そして心もあります。しかし、心が無知、無執着、否定的な感情などで汚れていますので、きれいに魂を反射できていません。魂は我々の中にあります。別のところから現われるのではない。ですけれども見えない。

もし心と知性がきれいになりますと、神様を認識、理解することができます。神様のイメージが出ます。真理のことを深く理解しますと、中に神様のイメージが出ます。お釈迦様が悟ったのは、中の神様ですね。

**外に神様を見る**

我々の中にある神様のことを説明しましたが、外に神様を見ることもできます。例えば、シュリー・ラーマクリシュナはマザー・カーリーがまるで生きているかのような姿を見ました。それが証明です。もし信仰の深い信者が神様を外に見たいと思ったら、神様は人間の形で現われます。

像に神様のイメージを持っている信者のために、神様は信者の好きな形に自分を変えて現われます。私はシュリー・ラーマクリシュナが好きですから、シュリー・ラーマクリシュナの形で現われます。イエスが好きな信者には神様はイエスの形で現われます。

バガヴァッド・ギーターの中にそのことがあります。

また例えば、ハヌマーンは、シュリー・クリシュナの場所に行って「私はラーマが見たいです」というと、シュリー・クリシュナはラーマの姿に変化しました。

しかしふつうの信者の心は世俗的ですから、見ることはできません。心をきれいにすると見ることができます。

シュリー・ラーマクリシュナは、ときどき一人で暮らし、神の御名をとなえ、彼の栄光をうたい、そして実在と非実在とを識別する―これらが神を見るために用いられる方法だ

と言いましたね。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁下段Ｌ１４～下段Ｌ１８

Ｍ「どんな状態のもとで、人は神を見るのでございますか」

師「強烈なの心で主に泣きつくのだ。そうすれば必を見る。人びとは妻子のために水さし一杯ほどの涙を流す。金のためには涙の中を泳ぐ。しかし、誰が神を求めて泣くか。ほんとうに泣いてに泣きつきなさい」

（解説）

意味は「神を愛する」ですね。愛のひとつの形として涙が出ています。大事なのは神様に対する愛です。例えば、愛した人が近くにいないと、愛する人のことを考えて泣きます。その涙の意味は、苦しみや悲しみではなく、愛のひとつの形ですね。涙の原因は愛です。

神様がまだ現われていない、神様をまだ見ていないと言って、いったい何人の人が泣いていますか？　ほとんど誰もいないでしょ。

・📖 （読む）「師と弟子」　９頁下段Ｌ１９～１０ページ上段Ｌ６

師はおうたいになった。

*お前のシャーマに、ほんとうに泣いて泣きつけ、心よ。*

*そうすればどうしてが、そっぽを向いていらっしゃれよう。*

*どうしてシャーマが、よそに行っていらっしゃれよう。*

*どうしてカーリーが、お前を離れていらっしゃれるか。*

*おお心よ、もしお前が真剣なら、の前に*

*ベルの葉とハイビスカスの花とを持ってきて、*

*そののもとにこの供えものを置き、*

*それに愛という、芳ばしいをまぜよ。*

（第３６回『福音』勉強会以上）